

令和4年度 『社会福祉法人昴会』 事業報告書

1. 令和4年度の重点課題からの振り返り

計画内容	取組み状況	評価
<p>虐待の防止・人権擁護の更なる取組み 法改正に伴う運営基準の見直しにより、虐待防止の更なる推進と身体拘束の適正化を推進する。令和4年4月より義務化される内容を踏まえ、運営規程の見直し、虐待防止規程等の策定、委員会・責任者の設置、研修の実施等を実施し、虐待防止や不適切な行為の掘り起こし、振り返り及び改善を行う。</p>	<p>昨年度「障害者虐待防止の更なる推進」及び「身体拘束等の適正化の推進」に向けた委員会・責任者の設置や運営規程の見直し・指針の策定等を踏まえ、今年度は虐待防止委員会の開催と法人及び事業所毎に虐待防止・権利擁護研修を実施した。</p> <p>また、虐待防止・権利擁護自己チェックシートを使った支援の振り返りを実施し、次年度にアンケート結果の分析・対策を実施する予定。</p>	○
<p>専門性を高めるための機会の充実 『昴会研修体系』に基づいて、各事業、利用者の状況に合わせ、職員個々のスキルアップや職員連携の向上を図っていく。</p>	<p>法人及び事業所毎に目的やテーマ別、また内部・外部研修を有効に使い研修を開催しており、職員個々のスキルアップにつながった。また、コロナ感染予防としてウェブ開催する外部研修が増えたことで参加が容易となった半面、グループワークなど対面実施が望まれる研修テーマについては、依然として難しい状況があった。次年度は、コロナ対策の緩和に伴い多くの研修で集合・対面形式が復活する見込みであり、ウェブ研修と上手く組み合わせ効果的に参加したい。</p> <p>現在の課題として、形式的には研修体系が整えられているものの、実態として運用面や計画的な育成の視点が弱いため、キャリアパスPJTの検討と連動させながら、組織や職員個人が主体的かつ相互に目標管理できるような仕組みを整備していく必要がある。</p> <p>また、職員の活躍支援、人間関係の調整、教育的な指導、ストレスケア等をフォローする機能として、計画的な面談機会が求められている。</p>	△
<p>安定的な事業運営のため、職員人材の確保への取り組みを強化する。 安定・継続的な運営のため、全国社会福祉法人経営者協議会等を活用し、経営基盤の確立・強化及び福祉施設の機能充実と健全な施設運営を目指します。</p> <p>県・市社会福祉協議会やハローワーク、民間の求人媒体等を通じた直接的な求人活動及び、ホームページの活用や実習生やボランティアの積極的な受け入れや外部との関わりの施設・事業所行事等を通じた間接的な求人活動による職員人材確保と、研修や職場内の活性化の取</p>	<p>経営協セミナー等へ参加し、社会・福祉動向のキャッチに努めた。また健全経営に向けた管理者の育成（経営的な視点）を進めた。</p> <p>今年度も、四季の郷とすばるで積極的に実習生の受け入れを行った。</p> <p>福利厚生の一環として、職員の健康増進を経営的な視点で取り組む事業所を対象とした、「健康経営優良法人2023」を取得。さらに安心して働き続ける職場環境の整備として、「福祉はぐくみ企業年金基金」の導入を決定し、4/1現在で52%の職員が加入している。</p>	△

り組み等による離職防止の取り組みを実施する。		
引き継ぎ、四季の郷での第三者評価受審を目指した取り組みの実施していく。	昨年度実施した聖隷クリストファー大学学生による模擬第三者評価に対するその後の取り組みについて、後輩学生達の訪問調査を受ける。当施設にとっても、次のステップに向けた刺激となった。一方で、本格的な受審に向けた準備は進んでおらず、重点整備の項目検討や行程表の作成を進めていきたい。	△
災害及び感染症が発生した場合であっても、障害福祉サービスが安定的・継続的に提供されることが重要であることから、障害福祉事業所等における業務継続計画（BCP）の作成に取り組めます。また、法人防災委員を配置し、定期的な委員会活動を通して平時の準備及び有事のリーダーを担います。	法人として定期的な委員会活動ができず、事業所単位の訓練となってしまったが、西・南自立支援協議会の防災ワーキンググループの担当者を講師に招いた際には、各事業所防災担当者が参加し、福祉避難所設営の模擬訓練動画を視聴しながら意見交換を行うことができた。それぞれの事業所特有の特徴（リスク）や課題が共有でき、有意義な研修となった。	△
法人における今年度の重点取組みとして、期限を区切ったプロジェクトチームを立ち上げます。健全な運営を目指し…規程見直しPJT、魅力的な職場づくりを目指し…キャリアパス・人事考課検討PJTを通して検討します。	規程見直しPJTは就業規則の点検と併せ、事情所別となっている規則を一体とする作業を進めたが、作成までには至らず、次年度に引き継ぐことになった。 また、キャリア・人事考課検討PJTは、メンバーにマネジメント講座やセミナーへ参加してもらい、検討を進める上での情報収集や土台作りの1年となった。	△
<u>地域における公益的な取組</u>	大山ファーム…地域交流スペースの貸し出しや幼稚園児へトマト狩り招待、GH…大山町北川沿い道路の除草、あすなろ作業所…有志によるフラダンスサークルや行事開催を通じた地域交流、四季の郷・すばる…実習生の受け入れ等、新型コロナウイルスの感染状況に応じて取り組みを実施した。より積極的な発信やさらなる展開へつなげ、「地域における公益的な取組」の責務を果たしていきたい	○

2、法人全体研修

月日	研修	内容	対象
8/22～ 9/30	管理者・サビ管 向け研修	社会福祉施設人事・労務管理研修	管理者向け
8/22～ 9/30	ハラスメント オンライン研修	管理者・サビ管向け研修	管理者向け
11～1月		労働者向け研修	事業所毎に実施 労働者向け
2～3月	虐待防止・権利 擁護研修	DVD視聴 「障害者虐待防止に向けて ～職場で	事業所毎に実施 職員全員

		の相談と、行政への通報について」 講師 栗原久	
--	--	----------------------------	--

3. 各事業の利用実績

施設・事業名		年間 開所日数	利用者数× 利用日数	1日平均 利用者数	事業 定員	備 考
四季の郷	施設入所支援	365日	16,986人日	46.6人	50人	
	生活介護	269日	12,200人日	45.4人	49人	
	短期入所	365日	117人日	0.3人	10人	
第一・第二・第三大山 荘	共同生活援助	365日	5,744人日	15.8人	17人	
細江あすなろ作業所	生活介護	260日	4,618人日	17.7人	20人	
大山ファーム	就労移行支援	261日	275人日	1.0人	6人	
	就労継続支援B型	261日	5,715人日	21.9人	22人	
アグリッシュ西丘	生活介護	258日	2,639人日	10.3人	12人	
	就労継続支援B型	258日	5,232人日	20.3人	20人	
事業所合計			53,526人日	(3年度) 52,872		

4. 法人評議員会の開催

第1回 令和4年6月21日(木) 14:00~16:15 於. 四季の郷作業棟

(欠席者) なし

- (議案) 1. 令和3年度事業報告書案の承認
2. 令和3年度収支決算書案の承認
3. 監事監査の認定について

※報告事項

5. 法人理事会の開催

第1回 令和4年6月21日(木) 14:00~16:15 於. 四季の郷作業棟

(欠席者) なし

- (議案) 1. 令和3年度事業報告書案の承認
2. 令和3年度収支決算書案の承認
3. 監事監査の認定について
4. 昴会評議員の推薦
5. 昴会評議員選任・解任委員会の審議について
6. 令和4年度第1回評議員会議案について
7. 昴会管理規則の改定について

※報告事項

第2回 令和4年9月30日(金) 書面決議

(欠席者) なし

- (議案) 1. 諸規定の改定について

第3回 令和4年12月23日(金) 14:00~16:40 於. 四季の郷作業棟

(欠席者) 1名

- (議案) 1. 第一次補正予算案の審議
2. 福祉サービス事業見直し案の審議

3. 福祉はぐくみ企業年金基金導入案の審議
4. 一体行動計画案の審議
5. 規程改定案の審議
6. 事業所院（あすなる作業所）変更の審議

※報告事項

第4回 令和5年3月28日（火）14:00～16:40 於. 四季の郷作業棟
（欠席者）なし

- （議案）
1. 令和4年度第二次補正予算案の審議
 2. 令和5年度帛会事業計画案の審議
 3. 令和5年度帛会収支予算案の審議
 4. 管理者等変更の件
 5. 規程改定案の審議
 6. 苦情解決第三者委員の選任の件

※報告事項

6. 法人監事による内部監査の実施

令和4年5月24日（火）、5月30日（月）、安富恒理事長、早戸真規理事、伊藤利郎事務局長、新村玉美事務員、笹田雅世事務員が同席し、伊藤秀俊監事、落合克能監事による令和4年度決算監査を実施した。

7. 借入金の償還

「第二大山荘」・「第三大山荘」及び「大山ファーム」建設資金として独立行政法人福祉・医療機構よりの借入金について、令和4年度は以下のように償還を行った。

<第二大山荘・第三大山荘>

令和 4年 9月 利子	7, 497 円
令和 5年 3月 元金	3, 570, 000 円
令和 5年 3月 利子	7, 497 円
合 計	3, 584, 994 円

<大山ファーム>

令和4年 4月 元金	298, 000 円
.....元金合計（×12）.....	3, 576, 000 円 ①
令和4年4月～4年3月利子	31, 776 円 ②
合 計（①+②）	3, 607, 776 円

8. 各施設・事業所の事業報告

四季の郷

1. 四季の郷の支援目標

今年度も、『生き生きとした暮らしの実現』を四季の郷の支援目標に掲げ支援を行ってきた。

2. 利用者の状況

年度途中に医療療養型病院に転院1名の退所者、長期入院2名のケースがあった。入所は計0名でであった。男性の比率が上がり、平均年齢が少し下がった。

また、平均障害支援区分については、前年度の同じ状況であった。

利用者の年齢構成 (単位：名／施設入所支援利用者 49 名中・R4. 3. 31 現在)

	18 歳～	30 歳～	40 歳～	50 歳～	60 歳～	70 歳～	計
男性	2	3	10	7	4	2	28
女性	3	1	2	5	6	3	20
最高齢 85 歳・最若齢 19 歳／平均年齢 54.6 歳							

利用者の障害支援区分

	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	計
男性				4	12	12	28
女性				4	7	9	20
平均障害支援区分 5.3							

3. 具体的な取り組み

(1) 支援体制

●生活支援体制

今年度より、支援体制を生活支援部／日中活動支援部の 2 部門に分け、それぞれにリーダーを立てることで、きめ細やかな支援体制を実施してきた。

また、重点支援目標として『虐待防止・権利擁護』『模擬第三者評価のフィードバック』『業務の標準化』を掲げ、身体拘束の適正化、職員面談の試行的実施、業務のマニュアル化を、委員会活動を通して実施しました。

障がいの重度化・多様化・個別化に対応する形で、職員配置に配慮することで、安全面の確保や利用者の要望に対応してきた。

●会議

A. 職員全体会議

半年に 1 回（4 月・10 月）開催。全職員出席。事務や医務、栄養の各部署からの連絡事項と共に、施設全般の方向性の確認、事業計画及び支援体制の確認、新型コロナウイルス感染予防等の確認等を行った。

B. 生活支援会議、男女別モニタリング会議

今年度も男女別と男女合同での 2 つの形で実施してきた。今年度は特に生活支援に特化した議題について、情報共有や事例検討を行った。また、モニタリング会議では、利用者理解を深める取り組みとして、事例検討やライフヒストリーの取り組みを実施してきた。毎回、会議資料を工夫して、伝わりやすく共有しやすい会議の実施に努めてきた。

C. 給食会議

毎月 1 回開催した。施設長・事務局長、サービス管理責任者・看護師・栄養士・厨房職員が出席。食事の設備・内容、利用者への対応等に関する調整等を行った。

D. リーダー会議

毎月 1 回開催した。施設長、サービス管理責任者・各リーダーが出席した。支援全般の課題等の具体的な検討・調整等を行った。

E. ケース検討会議

特定の利用者への支援や事故等の状態を見て、必要に応じ、会議を実施してきた。

F. 日中活動支援会議

隔月で実施した。サービス管理責任者・日中活動リーダー・支援員が出席した。日中活動（課業・余暇・行事）に関する実施状況の把握、課題等の具体的な検討・調整を行った。

●委員会

A. QOL 向上委員会

今年度も、サービス管理責任者、リーダーを含め4名の職員での『QOL向上委員会』を組織し、委員会を実施した。委員会での取り組みは以下の通り。

- ・職員サービス自己評価の実施と前年度結果の集計及び改善に向けた取り組みの実施
- …今年度は『権利擁護』をテーマとして、QOL委員会主催の園内研修会の実施・関わり方（言葉遣い、不適切な関わりを助長する支援環境の改善）の振り返り・身だしなみ強化月間などの取り組みを実施してきた。また、利用者理解を深めることを目的として、ライフヒストリーワーク（利用者のご自宅に訪問し、保護者から成育歴や幼少期のエピソードを窺い、資料として取りまとめる）を行い、職員間で情報を共有できたことは、利用者への関心が高まり新たな視点で支援を行うことに繋がった。
- ・利用者の意思決定への支援・・・利用者自治会の運営
- …利用者自治会の実施

今年度も、利用者から選ばれた会長を中心に役員その他参加希望者によって自治会の取り組みを行った。

『セレクトドリンク』、『セレクトふりかけ』、『入浴剤』、『行事のメニュー』等、利用者の生活の中に少しでも自分で選択を行う機会を持てるように、また、選択肢の決め方も、自分の意思が確認できるように雑誌や写真、絵、実物を使ったイメージ出しを行うなど、工夫を行ってきた。自分たちの決めたことが実現することで、生活意欲の向上につながっているように感じた。

また、健康面の課題から、おやつの日（行事）/誕生会ケーキの提供回数を減らさざるを得ない状況があった際には、臨時の利用者自治会総会を開催し、視覚的なツールや簡易な言葉を用いた説明を行い、利用者の理解と同意を得るよう努めてきた。

- ・虐待防止委員会の機能として、身体拘束モニタリング・不適切ケアについての意見交換を行った。

B. 危機管理委員会

今年度も、サービス管理責任者、主任を含め4名の職員での『危機管理委員会』を組織し、毎月委員会を実施した。委員会での前月の事故報告書、ひやり・はっと報告書の集計・分析を行うと共に再発防止策の検討を行った。必要な場合には、主任者会議やケア会議につなげ、再発防止策の具体的な検討や周知を行ってきた。

(2) 日中課業活動の支援

今年度は、利用者の高齢化・重度化という課題へのアプローチとして、憩い棟活動や個別リハビリ活動を通して、B棟利用者の活動機会を確保することや、全体の活動機会をより平均化するために活動単位（グループ）を大きく編成し直すなどの取り組みを行った。

A. 平日の課業活動支援（生活介護事業での日中活動支援）

介護度の高まりや日中入浴の増加、また6・1月に新型コロナクラスターが発生したこともあり、今年度も毎日実施はできなかったが、週案に沿って安定的に実施してきた。また、希望者にはあんま師による関節可動域維持のための施術を取り入れた。以下が活動グループ。

●作業系活動

・ペットボトルキャップ仕分け作業 ・バリ取り作業 ・フック作業 ・リサイクル活動

●歩行系

・施設外周歩行 ・公園散歩（ドライブ散歩）

●リハビリ系

・個別リハビリ活動 ・憩い棟活動 ・訪問マッサージ

B. 休日等のクラブ活動支援

今年度も、余暇活動として以下のクラブ活動を実施した。

●音楽クラブ

カラオケやリトミック、季節に合った歌を歌ったりしてきた。

●競技クラブ

コロナ感染拡大のため『フライングディスク競技大会』や『県知協オレンジマラソン大会』がリモート開催となり、大会参加を見送った。

●絵画クラブ

外部より絵画の講師を招き、愛護ギャラリー展出展の為の作品づくりを行った。利用者1名の作品が奨励賞を受賞することができた。

●元気クラブ

平日の活動の補完的な意味も含め、散歩中心の活動を行った。

●家庭科クラブ

調理やおやつ作りを行った。

(3) 行事活動の支援

今年度も、ねらい別に全体行事、グループ活動、誕生会・季節行事に大きく分けて、職員の役割分担の下で行事活動を行った。

A. 全体行事

●春の親子遠足・・・5月30日（月）

コロナ感染予防対策のため、外出はせずに施設内でのイベント（動物園からライブ中継）や特別食（お弁当）を楽しんだ。職員も一緒に楽しみ、盛り上げるなど、雰囲気づくりに努めた。

●夏祭り・・・8月30日（火）

コロナ感染拡大のため、夏祭りの雰囲気（あすなろ太鼓疲労、盆踊り、夏祭りに困んだゲーム）はそのままに、利用者・職員のみで小規模に実施した。

●秋祭り・・・11月15日（火）

コロナ感染拡大のため、保護者会バザーや外部団体の出店や催し物は中止し、利用者・職員のみで実施した。今年度は、身体を動かす競技中心の企画を実施し、お揃いの30周年記念Tシャツを着て、皆さん張り切って参加していた。

●クリスマス会・・・12月20日（火）

コロナ感染拡大のため、利用者・職員のみで、パーティ食の喫食を中心に実施した。恒例のプレゼントは、サンタクロースがA棟・B棟に出向き、密を避けるように配慮しながら実施した。

B. グループ活動

コロナ感染拡大のため、今年度の実施は見合わせるようになった。

C. 誕生会・季節行事

今年度も、生活の“メリハリ”に季節感を取り入れていきたいという理由から、お花見や七夕、新年会、節分などの企画を、誕生会との同時企画という形で実施してきた。

D. その他の行事

映画会やミュージカル、作品展やスポーツ大会等のイベントは、参加が難しかった。

(4) 健康を維持するための支援

●医療管理

今年度も、体調の変化の早期発見と早期対応に努めてきた。そのために支援員や栄養士との連携を行った。

服薬管理等の日常的な医療管理は嘱託医による月2回の定期受診に基づき実施してき

た。また、年2回の健康診断や年1回の歯科検診で発見された糖尿病や高血圧、心疾患、虫歯、歯槽膿漏等の病気・症状に対しては早めの通院を心掛け、地域のかかりつけ医と連携しながら検査・治療を行いました。病状によっては紹介にて病院へつなげていただいたり、緊急を要する場合には救急外来を受診して対応を行った。

今年度も引き続き、利用者・職員が新型コロナウイルスに感染しないように、また、感染の早期発見ができるように、検温をはじめ利用者の体調面の観察等を強化するとともに、館内消毒の時間を設定するなど、全職員で感染予防対策に努めてきた。また、新型コロナウイルスについても計2回の接種を東山診療所の協力を得て実施した。しかしながら、1月に利用者・職員・関係者も含め80名強が陽性となるクラスターが発生し、2週間ほどの隔離療養となり、法人内の他事業所職員に応援に入ってもらったことで、何とか乗り越えることができた。

●栄養管理

健康管理に関しては、医療・支援側との連携を保ちつつ、管理栄養士の管理の元で利用者一人ひとりに合った食事提供を行ってきた。

特別食の内容はダイエット食・嚥下食等があり、その他糖尿対応のカロリー指定、食欲不振や偏食傾向の強い利用者には代替食の提供や調理法の工夫、栄養強化の必要がある利用者には栄養補助食品を使用してきた。年々、利用者の高齢化による嚥下力が低下している利用者が増え、嚥下（ペースト）食・極刻み食等、利用者の嚥下状況に合わせた食事の提供が必要になってきている。また、栄養ケアマネジメントにより、栄養士だけではなく他職種との連携をとりながらトータル的な栄養ケアを行ってきた。定期的なスクリーニングや栄養ケア計画の見直しを行う事により、よりきめ細やかな栄養サポートを心掛けている。献立作成時は旬の食材の取り入れ、利用者の要望を取り入れた季節感のある行事食やご当地メニューなど工夫を行い、提供してきた。

震災時への対応としては、6日分の非常食と飲料水を確保し、防災倉庫に備蓄している。施設利用者にとって、食事は一日の楽しみの大きな部分を占めているため、今後も栄養管理・衛生管理・感染予防をしっかりと行い、利用者に喜んでもらえるような食事を提供していきたい。

※食事提供の状況（2023.3 現在）

盛り付け量	主食	カロリー	男	女	合計
極々小	60g	1450kcal	0	0	0
極小	100g	1550kcal	0	7	7
小	120g	1650kcal	6	9	15
中	150g	1750kcal	6	3	9
大	200g	1950kcal	7	2	9
特大	250g	2150kcal	7	1	8
超特大	300g	2350kcal	1	0	1
合計			27	22	49

種類		男	女	合計
特別食	ダイエット食	1	3	4
	コンニャクライス	0	2	2
	低脂肪牛乳			
	糖尿食	0	0	0
	心臓病対応食（塩分制限）	0	0	0
	極刻み食	1	4	5
	刻み食	13	8	21
一口大	1	0	1	
嚥下ミキサー食	0	0	0	

栄養 補助食品	微量栄養素補助食品	0	1	1
	栄養強化食品	3	2	5

(5) 防災訓練

今年度も、万が一に備えて毎月計画的に防災訓練を実施した。訓練実施後は、参加者にチェックシートの記入をしてもらい、その訓練ごとに振り返りを行ってきた。

また、引き続きコロナ感染予防のため、消防隊・救急隊による救命講習会は見合わせ、福祉避難所の設営訓練(感染対策も踏まえ)を行った。

実施月日	訓練実施内容
4月12日	夜間火災を想定しての避難訓練、水消火器による消火訓練
5月24日	土日早朝火災を想定しての避難訓練
6月21日	平日日中の大規模地震を想定しての避難訓練、非常食炊き出し訓練
7月19日	大雨による河川氾濫の避難訓練、停電訓練
8月24日	平日日中火災を想定しての避難訓練
9月20日	平日夜間火災を想定しての避難訓練、安否コールを使用した送受信訓練
10月7日	休日日中火災を想定しての避難訓練、非常食炊き出し訓練、
11月8日	平日日中の大規模地震を想定しての避難訓練「社会福祉施設防災の日」
12月13日	平日日中火災を想定しての避難訓練(抜き打ち)
1月28日	夜間帯の火災を想定しての避難訓練、消火器使用訓練→クラスター発生のため中止
2月22日	防災講習会…応急手当 WEB 講座
3月22日	平日日中火災を想定しての避難訓練

(6) 家族や地域の方々との関わりを深め、障害者福祉の地域拠点となるように努める。

①四季の郷保護者会の事務局機能

保護者会との橋渡しを行ってきたが、昨年度に引き続き今年度も全体活動はすべて中止となったため、保護者会役員会への出席が主な活動であった。

②行事ボランティアの募集・受け入れ

コロナ感染拡大のため、行事も利用者・職員のみで実施し、ボランティアの受け入れは行わなかった。

③実習生の受け入れ

今年度も積極的に実習生(保育実習・四季、ソーシャルワーク実習・すばる)の受け入れを行ってきた。

※実習生受け入れ実績 (令和4年4月～令和5年3月/実習受け入れ順)

所属等	目的	実習期間	実習日数	受入人数
浜松学院大学 短期大学部	保育実習	7月4日～7月16日	12	2
浜松学院大学 短期大学部	保育実習	8月29日～9月13日	12	2
実習受け入れのべ日数			24日	
実習受け入れのべ人数			4名	

(7) 短期入所

新型コロナ感染拡大による受け入れの中止や利用者の利用控え、またこれまで SS 利用してきた利用者が入所したこともあり、昨年度に引き続き利用受け入れが激減した状態であった。他にも、新規にオープンした GH で短期入所を併設している事業所が増えたことで、身近に利用できる選択肢が広がっている環境が整いつつある。

(8) 日中一時支援事業

今年度の受け入れについても、浜松市と委託契約を結び事業を行ってきた。浜松市は西区、北区、中区、南区からの利用が見られた。

(5) 職員のスキルアップに努める。

①職員研修の実施

●園内研修

日付	研修内容	参加者
4月8日	「自閉症利用者の理解」(サビ管・支援員) ※外部講師 ルピロ内山所長	6名
5月10日	「入所施設における不適切ケアの構造的理解」 (施設長・サビ管・支援員) ※外部講師 聖隷クリストファー大学 落合先生	15名
7月22日	「自閉症利用者の理解」(サビ管・支援員) ※外部講師 ルピロ内山所長	7名
12月2日	「自閉症利用者の理解」(施設長・サビ管・支援員) ※外部講師 ルピロ内山所長	7名
2月27日 2月28日	虐待防止・権利擁護研修 ～DVD「虐待防止に向けて」～	35名

●外部研修

日付	研修内容	参加者
5月25日	ファシリテーション講座(主任)	1名
5月27日	Zoom研修「福祉職員が知っておきたいコンプライアンス講座」 (サビ管)	1名
6月2・3日	Zoom研修「強度行動障害支援者養成研修(基礎)」(支援員)	2名
9月6日～21日 (7日間)	「令和4年度ふじのくに防災士養成講座」(支援員)	1名
10月17・18日	「日知協東海地区大会」(支援員)	1名
10月21日 11月16・17日	「令和4年度 福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程 初任者コース」(支援員)	1名
11月7日	「マネジメント講座」(サビ管)	1名
12月15日	「静岡県福祉職員合同入職式出席者のための令和4年度フォローアップセミナー」(支援員)	1名
12月16日	「防災セミナー」(支援員)	1名
12月23日	「スーパービジョン実践講座」(サビ管)	1名
2月1・2日	「静岡県虐待防止・権利擁護研修」(支援員)	1名
2月9日	「強度行動障害の方を支援を一緒に考えてみませんか」(支援員)	1名
2月9・10日	Zoom研修「強度行動障害支援者養成研修(基礎)」(支援員)	1名
3月9・10日	Zoom研修「強度行動障害支援者養成研修(基礎)」(支援員)	1名

第一・第二・第三大山荘

※令和2年10月1日付で、職員配置の都合やグループホーム間の連携強化のため、指定上、第一大山荘と第二大山荘・第三大山荘を統合し支援を実施してきた。

■第一大山荘

1. 入居者の状況（令和5年3月31日現在）

	氏名	性別	年齢	入居年	日中活動先
1	Aさん	男	73	平成14年10月	四季の郷（生活介護）
2	Bさん	男	66	平成14年10月	大山ファーム（就労継続B型）
3	Cさん	女	66	平成22年5月	パルステック工業株式会社（令和5年3月31日退職）
4	Dさん	女	62	平成31年4月	アグリッシュ西丘（就労継続B型）
5					

2. 支援の状況

- ・年々、入居者の高齢化に伴う介護度の高まりや通院等の機会の増加が見られている。特に、持病である高血圧や糖尿病等の生活習慣病の罹患や悪化が見られている。また、情緒面でも不安定な様子が見られることも増えている。協力医療機関への通院を行い、医師より指導や投薬を受けているが、本人の病気理解や現況理解が難しく、職員の説明に理解ができなかったり、意味は分かっているにもかかわらず応じることができない姿も見られた。健康管理を本人と如何に進めて行くかが課題である。
- ・生活の主体者は利用者であることを意識した支援を行った。ただ、グループホームが他人との共同生活の場でもある以上、お互いにある程度のルールを設けることはあったが、「利用者一人ひとりの暮らし」を基本に、情報提供と利用者の自己選択・自己決定を尊重し、そして本人の生活スタイルや自由、要望に応えることを大切に支援を行った。
- ・日常生活においては、新型コロナウイルス感染予防対策を行いながら、平日は日中活動先の大山ファームやアグリッシュ西丘、四季の郷、就労先の会社との連絡調整を行い、連携・協力して支援を行った。土日は、新型コロナウイルスの影響で、法人の行事や地域の行事、催し物が中止となり、地域で「自分らしく、普通の暮らし」ができることは難しかった。ただ、その中でも、感染予防を行いながら、最低限の買い物や美容院、床屋に行くことはできた。
- ・「事故」については、転倒する利用者が多かった。どれも大事には至っていない。60歳以上の年齢が、ほとんどなり、高齢化が見え始めている。大きな怪我に繋がらないようにしていきたい。
- ・新型コロナウイルス感染予防については、マスクの着用や手洗い、消毒、指導を繰り返し行った。外出時の注意を何度も伝え、本人自身が注意してもらえるよう取り組みを行った。どれだけの理解が得られたのかは不明だが、入居者なりに注意をしてくれている姿も見られた。
- ・家族（成年後見人等）とは、面談や必要な連絡、日帰り帰宅等の機会を通して連携を保ってきた。
- ・地域の方々との関わりについては、新型コロナウイルスの影響で、自治会に入会したものの、地域行事等が中止となり、参加することができなかった。地域の方から、見かけた時には声を掛けて頂くなど、地域住民の一人として接し、気に掛けて頂いていることを感じた。
- ・スキルアップについても、新型コロナウイルスの影響で中止になり、法人の職員研修や外

部研修に参加することが出来なかった。

3. 支援体制

- ・支援体制としては、管理者、世話人（パート職員1名）、生活支援員、補職職員が日常生活支援に当たり、地域生活を送る上で必要な買い物などの外出支援、食事支援、通院付添等の医療支援の他、相談事やメンタル面のケア、日中活動場所との連絡調整などを行った。また、バックアップ施設の四季の郷職員、日中活動先の大山ファームやアグリッシュ西丘職員、相談支援事業所職員、パルステック工業の担当者とも連携・協力して支援を行った。

4. 健康支援

- ・毎朝の検温と血圧測定、年2回の健康診断を通して健康管理に努めた。また、疾患のある入居者のために日常的な服薬管理、通院支援を継続した。また、日中活動先での歯科検診や年2回の健康診断の結果を踏まえ、必要な利用者の受診支援を行った。

5. 行事

- ・第一大山荘全体での行事は計画していないが、第二大山荘・第三大山荘の行事が行えた時には、参加してもらうようにした。新型コロナウイルスの影響で、行事が中止になったり、規模を縮小しての行事となり、参加することは出来なかった。

6. 会議・研修

- ・第一大山荘の会議は年2回実施した。研修は、第二大山荘・第三大山荘の研修に参加する形で実施してきた。

7. 防災の取り組み

- ・防災訓練実施状況は以下の通り。

5月16日	大雨による土砂災害を想定しての避難訓練
11月14日	大雨による土砂災害を想定しての避難訓練

■第二大山荘・第三大山荘

1. 入居者の状況（令和5年3月31日現在）

第二大山荘

	氏名	性別	年齢	入居年	日中活動先
1	Aさん	男	75	平成21年9月	引佐草の根作業所
2	Bさん	男	71	平成21年9月	細江あすなろ作業所
3	Cさん	男	59	平成21年9月	細江あすなろ作業所
4	Dさん	男	57	平成21年9月	大山ファーム
5	Eさん	男	48	平成21年9月	細江あすなろ作業所
6	Fさん	男	76	平成24年3月	アグリッシュ西丘

第三大山荘

	氏名	性別	年齢	入居年	日中活動先
1	Gさん	女	77	平成21年9月	アグリッシュ西丘
2	Hさん	女	57	平成21年9月	細江あすなろ作業所
3	Iさん	女	56	平成28年4月	大山ファーム
4	Jさん	女	72	平成29年6月	アグリッシュ西丘

5	Kさん	女	72	平成 27 年 6 月	細江あすなろ作業所
6	Lさん	女	50	令和 2 年 4 月	大山ファーム

2. 支援の状況

- ・今年度も法人昴会の基本理念に沿って「生き生きとした暮らしの実現」「地域での主体的な暮らし」を目指し支援を行ってきた。グループホームが他人との共同生活の場でもある以上、お互いにある程度のルールを設けることはあったが、「利用者一人ひとりの暮らし」を基本に、本人の生活スタイルや自由、要望に応えること、意思決定支援、そのための情報提供を大切にされた支援を行った。
- ・日常生活においては、新型コロナウイルス感染予防対策を行いながら、平日は日中活動先の大山ファームやアグリッシュ西丘、草の根作業所、あすなろ作業所、相談支援事業所との連絡調整を行い、連携・協力して支援を行った。土日は、新型コロナウイルスの影響で、法人の行事や地域の行事、催し物が中止となることが多く、参加することは少なかったが、その中でも、開催を実施する行事には、感染予防を行いながら、参加することができた。又最低限の買い物や美容院、床屋に行くこともできた。地域で「自分らしく、普通の暮らし」ができるまでには至っていない。
- ・「事故」については、転倒や小さな傷が見られる場合があったが、大きな怪我には、繋がっていない。第二大山荘・第三大山荘の利用者の半数が 65 歳以上と高齢化が進んでいる。引き続き、転倒等の事故の発生予防に努めていきたいと思う。
- ・新型コロナウイルス感染拡大予防については、第一大山荘同様にマスクの着用や手洗い、消毒、指導を繰り返し行ってきたが、長時間マスクをつけることができない利用者も見られた。
- ・家族（成年後見人等）とは、年 2 回の個別面談や必要な連絡、帰宅等の機会を通して連携関係を保ってきた。

3. 支援体制

- ・管理者、生活支援員、世話人が日常生活支援・介助に当たり、地域生活を送る上で必要な買い物などの外出支援、通院付添等の医療支援の他、相談事やメンタル面のケア、日中活動場所との連絡調整など多岐に渡る支援を行った。また、日中活動先である大山ファーム職員、アグリッシュ西丘職員、あすなろ作業所職員、草の根作業所職員、相談支援事業所相談員、四季の郷看護師・栄養士等とも連携・協力して支援を行った。
- ・少数職員体制で支援を行なっているグループホームでは、職員個人の経験や知識、生活観が支援内容に直結しやすい特性があるため、職員間で支援目標や方針の共有・理解を図るよう、会議の有効活用や小まめな情報交換・意見交換を心掛けた。

3. 行事

- ・第二大山荘・第三大山荘の行事としては、個々人の余暇支援と合わせて、季節を感じることもできる外出ができる時には行った。新型コロナウイルスの影響で、行事が中止になったり、規模を縮小しての行事となり、参加する機会は、少なかった。
 主な行事は以下の通り。
 フライングディスク大会・花火、初詣、誕生会、食事会、外出

4. 健康支援

- ・毎朝の検温を実施し、日々の体調観察に努めた。定期的に精神科と呼吸器科、循環器科等の通院に加え、年 2 回の健康診断の結果や日中活動先での歯科検診を踏まえ、要治療の入居者の受診支援を行った。

5. 防災の取り組み

- ・火災等災害発生防止に努めるとともに、定期的に火災、地震等の災害を想定した訓練を実施した。
- ・防災訓練実施状況

4月 19日	消防用設備の設置場所確認及び操作要領
6月 24日	発電機の使用方法与夜間の火災を想定した避難訓練
11月 5日	南海トラフ大規模地震に関する警戒宣言が発令されたことを想定しての避難訓練

6. 会議・研修

- ・月1回、もしくは、2ヶ月に1回、利用者の支援に関わる職員会議を行った。
- ・研修については、新型コロナウイルス感染の影響があり、法人単位の研修に参加することはなかった。職員会議内の時間を使った「感染予防」、「虐待防止」、「事故防止」等をテーマにした内部研修を実施した。
- ・外部研修については、新型コロナウイルス感染予防をした上で、少人数の研修に参加をした。

3月3日	施設職員等研修会 (2名)
9月8日	精神障害を理解するための研修会 (1名)
10月24日	精神障害を理解するための研修会(認知症)(1名)
11月9日	福祉・介護施設の管理者等を対象とした感染症対策講座(1名)

細江あすなろ作業所

1. 利用状況

*利用者の状況 定員20名 利用者21名(男性11名/女性10名)

年齢性別	知的障害が主	
	男性(名)	女性(名)
70代	1	2
60代	2	0
50代	1	1
40代	2	2
30代	3	4
20代	3	1
10代	0	0
計	11	10

※平均年齢44.6歳

障害支援区分	人数(名)	利用者本人の住居状況	人数(名)
3	1	自宅	11
4	9	GH 大山荘	5
5	6	四季の郷	3
6	5	他のGH	2
計	21	計	21

※平均区分4.7

2. 作業状況 開所日数 261日

- ①下請作業
 - ・ エステック（自動車部品）
 - ・ エイテック（自動車部品）

- ②自主製品
 - ・ 野菜
 - ・ ぼかし
 - ・ ビーズアクセサリー
 - ・ 縫製用品

- ③自主製品の販売
 - 販売方法
 - ・ 作業所直売
 - ・ 委託販売（社協・奥浜名湖商工会）

- ④その他
 - ・ アルミ缶回収

3. 活動状況

(1) 利用者の意思及び人格を尊重

利用者個々にアセスメントを行い、利用者が安全で楽しい日中活動が送れる場の提供に努めた。感染症対策として職員による企画・ワークショップを実施。（単調になりがちな日中活動に配慮した。）

(2) 利用者の自立した日常生活または社会生活を営む能力の向上。

特に、服装に関して季節、清潔に重点をおき、家庭との連絡を密にし、家庭事情で把握が困難な方については、許可を得て日常生活品の購入や作業所内での衣類の管理支援をおこなった。

(3) 利用者の食事場면을快適な時間となるように支援

- ・ 食事前の手洗いに関し清潔を意識する支援を行った。泡状のポンプを使用し除菌効果が高まるように手洗いの支援を行った。
- ・ 食事の場面では、支援員が見守り食事における咀嚼、消化能力の向上を意識した声掛けを行った。
- ・ 食後の歯磨き支援は、歯間ブラシ・糸ようじ・タフト等のグッズを使用して出来るかぎりの口腔ケアに努めた。

（令和4年度は浜松市障がい者施設歯科検診事業を実施。歯科医を招いて健診を行った）

(4) 筋力の衰えを防ぎ、体力の維持を目指す。

- ・ 毎日のラジオ体操、ロコトレ体操を行い、個々のペースにあった歩行を行った。
- ・ 指導者を外部から招き、機能訓練を含めた体操を行った。
- ・ 希望者3名に関しては、有料ではあるが専門家によるリラクゼーションを行った。

(5) 生産活動を通じて、社会の一員であるという自覚の持てる支援

- ・ 高齢化、重度化に伴い下請作業では対応できない部分が増えたので、自立課題を提供し作業に必要な態度、技術、集中力、知識、協調性などの習得を目指した。
- ・ ビーズアクセサリーを女性利用者中心に作成して販売することができた。
- ・ 園芸活動も定着し、少量だが収穫物を販売できるようになった

(6) 表現活動、行事イベントの体験から個人の生きがい向上に努めた。

- ・ 音楽を利用して表現活動を活発に取り入れた
- ・ みをつくし文化センターホールを借りて日中活動の発表を「あすなろ文化祭」として行った。同時に日中活動で作成した絵画等の作品を展示した
- ・ 3月には第4回目の「細江DE音楽祭」を実施。外部から創作太鼓童衆「希宝」を招い

た。観客に制限を設けなかったことで10名以上関係者以外の来客があった。

4. 行事

4月	集団健康診断
6月	2町交流ボーリング大会（中止） 日帰りバス旅行（中止）
8月	夏祭り（ボランティアさんが出店風に企画を演出。あすなろで初めて実施）
10月	作業所連合会主催の永年勤続表彰大会参加（ZOOM） みをつくし文化センターフェスティバル出演 あすなろ文化祭・あすなろ作品展
11月	あすなろまつり（規模を大幅に縮小、食品はテイクアウトに限定にて実施）
12月	地区防災訓練（自治会の規模縮小の為不参加） クリスマス会（細江地区社協さんの企画に参加） 忘年会（食楽工房さんよりテイクアウト）
1月	初詣（小グループに分かれて行動）
2月	自治会主催の作品展作品出品
3月	元気ライブ出演 細江 de 音楽祭

その他	毎月1回	・誕生会 ・音楽療法士による音楽会 ・音楽療法士による音と遊ぶ ・アコーディオン奏者による歌う会 ・講師による軽体操・健康セラピー
	年3回	嘱託医師来所にて健康相談実施

4. 職員研修 細江あすなろ作業所 職員研修年間計画 実施報告

年 間：3回 実施
事業所)研修

	内 容	時 期
第一回	■ 静岡県作業所連合会・わ西部地区会 ■ 地域福祉と作業所の関り ※地域の困っていること グループワーク	6月7日(火) 10名
第二回	■ 防災研修 ■ DIG(災害図上訓練) ※セルフチェックは6月の職員会議にて実施	8月20日(土) 8名
第三回	■ ハラスメント研修 労働者向け ■ 障害者虐待防止研修 ■ セルフチェック	12月17日(土) 9名+2名

職員 移動研修

参 加	内 容	時 期
宮木雄大	職員研修 移動研修・ 福祉サービスの4基礎知識を理解する ノーマライゼーション～バリアフリー～ユニバーサルデザイン～SDGS・コミュニケーション 倫理について・防災について	4月1日(金)

	チームワークの意義	
--	-----------	--

個別研修

参加	内 容	時 期
宮木雄大	■ 障害者虐待防止研修 基礎・実践 (連合わ)	8/15～8/16 8/22～8/23
山本さつき	■ 精神障がいを理解するための研修 基礎研修	7/22(月)
河合華代	■ 強度行動障害者支援者養成研修 基礎編(連合わ)	10/4. 10/5
太田靖子	■ 強度行動障害者支援者養成研修 (連合わ) 実践編	10/11 10/12
金子 勉	2022年 静岡県障害者虐待防止・権利擁護研修 共通研修 オンデマンド 従事者コース ZOOM	R5.1/16～2/4 2/15(水)

法人全体研修

ハラスメント	法人研修 ハラスメント研修 管理者サビ管向け	R4./8/16(火) 神谷・金子
虐待防止	法人虐待防止・権利擁護研修 DVD視聴 障害者虐待防止に向けて ～職場での相談と、行政への 通報について 講師 栗原久 ① ロールプレイ「虐待防止担当者への相談」シーン1 シンキングタイム ② ロールプレイ「虐待防止担当者への相談」シーン2 ③ シンキングタイム ④ 「職場での相談と、行政への通報について」	R 5/3/11(土) 13名

5. その他

コロナウイルス感染症については比較的落ち着いており、作業所を起点に感染拡大したと思われる事案はなかったが、2月にインフルエンザ罹患が利用者さんとその家族や職員多数みられた。幸い週末を挟み1週間で終息できた。

大山ファーム

1. 利用者状況

(R5.3.31)

月	在籍者 (名)		1日の平均 出勤者数 (名)		稼働率 (%)		契約者		終了者		契約終了理由
	移行	B型	移行	B型	移行	B型	移行	B型	移行	B型	
4	3	24	2.1	22.2	36	101	0	2	0	0	
5	3	24	1.1	21.4	18	97	0	0	0	0	

6	3	24	1.0	22.3	16	101	0	0	0	0	
7	3	24	0.9	20.7	16	88	0	0	2	0	移行→一般就労(2)
8	1	24	0.9	21.7	16	98	0	0	0	0	
9	1	24	0.9	22.2	16	101	0	0	0	0	
10	1	24	0.9	21.7	16	98	0	0	0	0	
11	1	24	0.9	22.5	16	102	0	0	0	0	
12	1	24	1.0	21.7	16	98	0	0	0	0	
1	1	24	1.0	20.1	16	91	0	0	0	0	
2	1	24	1.0	22.8	16	103	0	0	0	0	
3	1	24	1.0	22.8	16	103	0	0	1	0	移行→B型
平均	1.6	24.0	1.0	21.8	17.8	99.5	0	2	3	0	

(男性：16人平均年齢 32.9 歳／女性：8人平均年齢 36.6 歳)

(1) 利用定員

○就労移行支援（6名）・就労継続B型支援（22名）

(2) 新規利用者内訳

○地域からの利用…2名（就労移行支援0名・就労継続支援B型2名）

相談支援事業所や特別支援学校等と連携を図りながら、就労移行支援・就労継続支援B型の募集を行った。

(3) 退所者内訳…就労移行支援3名

○就労移行支援では4月から2名の利用者が実習を行い、7月に一般就労することができたため、退所となった。また、今年度限りで就労移行支援が廃止となる為、就労移行支援1名の利用者が3月末日で退所となった。

2. 支援の状況

(1) 作業収入割合

●令和4年度総収入 11,837,874円（令和3年度総収入 9,195,436円）

(2) 支払工賃

●工賃総額 5,102,000円（令和3年度工賃総額/5,652,050円）

●月一人あたりの平均工賃 就労継続支援B型 17,715円
（令和3年度平均工賃） 就労継続支援B型 18,457円

(3) 支払工賃

他の事業所との差別化を行うため、就労移行支援・就労継続支援B型事業を行っている大山ファームは、一般就労及び平均工賃の向上（平均工賃20,000円以上）を目標に活動を行ってきた。また、ミニトマトの他に新たな自主製品として、玉ねぎの栽培を行った。

(4) 施設外作業

実習先事業所	作業内容	備 考
(福)おおぞら療育センター	衣類整理業務	
(医)西山病院	庭園管理業務	
(有)船越造園	除草作業	不定期
法林寺	除草・清掃作業	月に1回
めせあファーム	玉ねぎの収穫・除草等	
るびなすの畑	野菜の収穫・除草等	
優先調達	除草作業・維持管理作業	重要文化財中村家住宅、 新都田サービスセンター 舞坂宿脇本陣
社会就労センター	駐車場管理	スペース 24

興福寺	除草・清掃作業
-----	---------

就労に必要なスキル（挨拶やマナー）を経験・実践する場として施設外作業を位置付け支援を行った。また、グループ単位で作業を進めていくことで連携や協調性を育むことができた。地域とのつながりの中で小学校の除草作業や公共施設の清掃作業など活動の場を広げることができた。

(5) 下請け作業

委託先	作業内容	備 考
(株)TG	自動車部品の組み付け	
(株)ワコー	自動車部品の組み付け	
(株)ダイセン	物品仕分け・梱包	

今年度は、新型コロナウイルスなどの影響もあり、下請け作業量の減少が見られた。それに伴い作業収入も減少した。

(6) 自主製品

販売・委託販売	販売内容・取引先	備 考
ミニトマト（小売販売）	無人販売所	ふあ～まるしえ
（委託販売）	J A とびあファーマーズマーケット	三方原店・浜北店
	ヴィラ東山苑	高齢者施設
染色、縫製（小売販売）	無人販売所	ふあ～まるしえ

栽培作物（ミニトマト等）

ミニトマトについては7月中旬に定植をした。品種としては千果とアイコを選定した。JAのファーマーズマーケットへ出荷した。収穫量によっては浜松市内にある4つの店舗に出荷することで収益を確保することができた。
染色・縫製作業として小物（マスクやてぬぐい）や雑貨を製作した。

3. 健康支援

希望者に対して4月に健康診断を大山ファームで実施した。

感染症対策として通所時の検温や換気、消毒を徹底した。また、利用者にもマスクの着用や手洗い等の必要性を継続して伝えたことで、検温や換気、消毒、マスク着用等が定着し、感染予防意識が高まった。今年度については、職員・利用者ともに家庭内を経路に新型コロナウイルス感染が散発的に発生した。

4. 防災・危機管理・リスクマネジメント

年間、3回の防災訓練を行った。(5月「土砂災害訓練」(9月「総合防災訓練」11月「福祉施設防災訓練」)を実施した。

「ひやり・はっと事例報告書」や「事故報告書」が提出された際は、経緯や改善策を検討して再発防止に努めた。

5. 行事

1月4日、「新年会」を実施した。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、今年度も「地域交流まつり」を中止することとなった。

6. 会議・研修

調整会議（委託作業等に関わる調整事項…1回/週）支援員会議（利用者支援に関わる内容…1回/月）モニタリング会議（個別支援計画に関わる内容…2回/年）を行った。

内部研修は、「虐待防止・権利擁護について」「ハラスメントについて」等を行った。
外部研修についてはコロナウイルスの影響があり、必要な場合を除いて参加を自粛した。

アグリッシュ西丘

1. 利用者状況

	在籍者数		一日平均 通所者数		稼働率 %		新規 契約者		退所者		退所理由
	B型	生介	B型	生介	B型	生介	B型	生介	B型	生介	
4	28	16	20	10	100	88	2	2			
5	28	16	20	10	100	86					
6	28	15	20	11	102	93			1		入院
7	27	15	19	11	96	92			1		介護保険移行
8	25	15	19	10	94	84			2		介護保険移行他
9	25	14	20	10	100	84			1		介護保険移行
10	25	13	19	9.3	96	78			1		他事業所移行
11	25	13	20	9.7	98	81					
12	28	13	21	10	106	84	3				
1	28	13	21	10	105	82					
2	28	13	22	10	111	86					
3	28	13	21	10	105	83					
平均	27	14	20	10	101	85	5	2	3	3	

利用定員 就労継続B型支援（20名）

【新規利用者内訳】

- ・特別支援学校の就労実習や見学を実施していることから、卒業後の進路先の一つとして認識してもらえており、毎年入所に繋がっている。今年度は2名が入所。
- ・浜松市から提示された定員遵守への対応を行ってきたが、毎月利用希望者が出ていた。介護保険施設に移行される方もいたが、それでも利用枠から溢れた。その後の対応として定員を増やすことを検討。令和5年度から定員24名にすることとし浜松市からも承認を得た。

利用定員 生活介護（12名）

【新規利用者内訳】

- ・特別支援学校から2名が入所された。毎年支援学校から入所される方がいる。上記にもある通り定員遵守により利用者の調整に悩んだ。今年度は平均85%の利用率となったが、次年度は特別支援学校から2名の方が利用者となることが決定しており100%になる見込み。相談員や地域との連携により利用者の数が着実に増えている。

2. 支援の状況

就労継続支援B型

(1) 令和3年度作業総収入 7,041,708円

利用者の工賃向上を目指し、単価が高い作業を今年度も探した。単価が高い作業は高度なものが多いが、作業を細分化することでさまざまな障害特性をかかえる利用者でも多数参加することができた。また、協力して一つの物を作り上げることができ達成感も感じられることができ

ていた。コロナ禍ということもあり依然として作業の搬入量に波がある。さまざまな企業と委託契約を結び、搬入量の調整を行う事で毎日作業を提供できる体制を整えた。これによって大幅な作業収益向上と工賃を増やすことに成功。前年度より約 200 万の収入増。平均工賃も 4000 円ほど増えた。今後は現状維持しつつ向上できるように取り組んでいきたい。

※支払工賃の状況

工賃総額 4,736,500 円 (月一人あたりの平均工賃 1,5837 円)

(2) 作業状況

●施設外作業

実習先事業所	作業内容	備 考
パセリ農家	パセリ片付け	
宮本肥料店	堆肥の袋詰め	
幼保園・中学校	環境整備	
ハンティントンガーデン	シアスタイルの環境整備	
樽井農園	摘花、摘蕾、花桃選定、石拾い	
徳増農園	ニラの肥料撒き、定植、草取り	

●下請け作業

委託先	作業内容	備 考
(株) エイテック	自動車部品等組み立て	
(有) 藤野工業	自動車部品組み立て	
(株) 天竜電子工業	自動車部品組み立て	
(株) 大五運送	商品梱包等	
宮本農園	ネギの皮むき	
TG	自動車部品組み立て	

●農作業

事業所での栽培 (LED水耕)

LED水耕は、パクチー、ワサビ菜、ルッコラを中心に、他にもバジル、大葉、グリーンレタス、サニーレタスの栽培を実施。パクチー、ワサビ菜は辻上商店と秀商が全て買い取りとなっており、生産分=納品により売り上げに繋がっている。

栽培した農作物は、以下のような場で販売をしてきた。

販売・委託販売	販売内容・取引先	備 考
小売販売	各行事	
委託販売	J A とぴあファーマーズマーケット	三方原店
	ファーマルシェ	
	アグリッシュ、四季の郷にて販売	
	るびなすの森	

生活介護

(1) 活動・作業状況

今年度も作業と運動を中心に日課を組み立てており、作業については収益が生まれるものを提供した。主に自動車部品の組立と野菜・果物の袋詰めを行い、毎月支給金(工賃)を通所されている利用者に支払っている。工賃を得ることで社会参加への実感と余暇の充実にも繋がっている。活動は機能訓練やレクリエーションを利用者の障害特性に合わせて組み立てている。項目としてはボーリング、フリスビー、ボルトナット締め、フェルトボール色分け、パズル、体操、散歩、ドライブ、買い物訓練、調理実習、音楽療法などさまざまある。

3. 健康支援

希望者に対して4月に健康診断を大山ファームで実施。

感染症対策として毎日通所時・昼食時の検温実施と定期的な換気を行った。また、利用者には手洗い・消毒・ソーシャルディスタンス等の必要性を伝えると共に継続的に意識できるようにポスターも掲示した。食事でも二部制にして利用者同士の接点を減らすように調整を図った。障害特性によりマスクをつけられない方や外してしまう方がおり、継続して声掛けや介助を行った。コロナが落ち着いてきてはいるものの、今後も感染症対策はしっかり行い感染防止に努め、利用者の皆様が安心・安全に利用できるように取り組んできたい。

4. 防災・危機管理・リスクマネジメント

年間、3回の防災訓練を行った。(5月「不審者対応」11月「総合防災訓練」1月「防災備品確認」)また、定期的に昂会通所事業所が集まり、防災・危機管理について情報交換を行った。

「ひやり・はっと事例報告書」や「事故報告書」が提出された際は、経緯や改善策を検討して再発防止に努めた。

5. 行事実施状況

1月4日(水)新年会

※新型コロナウイルスの影響により行事は全て中止。新年会のみ感染対策を万全に行ったうえで実施した。

6. 研修

(1) 園内研修

回	月日	内 容	参加者
1	7/22 17:00～ 18:30	福祉サービスの基礎 講師：アグリッシュ西丘 管理者 新井誉巳	管理者・サビ 管・支援員8名
2	11/18 17:00～ 18:30	虐待が疑われる事案への対応について	管理者・サビ 管・支援員8名
23	3/1 17:00～ 18:30	障害者虐待防止に向けて ～相談・通報について～ 講師：フィールドサポートEM. 栗原久 様	管理者・サビ 管・支援員8名

(2) 外部研修

回	月日	内 容	参加者
1	12/2	発達障害者就労支援研修会	支援員1名
2	3/13	水耕栽培研修会	管理者1名 支援員1名

すばる

1. 事業状況

今年度は171件(令和5年3月31日現在契約数)の施設や事業所入所・通所利用者、在宅サービスの利用者及び利用希望者の計画相談を行ってきた。特定相談支援事業所の業務としては、

障害サービス利用のための計画案の作成とモニタリングの実施、障害サービスの利用調整が業務の主であるが、利用者本人だけではなく、その家族や地域住民からの生活や制度利用に関わる相談支援を、浜松市障がい者基幹相談支援センター、各区の障がい者相談支援センター(浜松市委託相談支援事業所)、市内及び湖西市の障害福祉サービス事業所、医療機関、成年後見関連事業所、地域包括支援センター、児童相談所、ハローワーク、民生委員、区役所社会福祉課等と連携しながら行ってきた。西区自立支援連絡会や相談支援専門員連絡会の研修会等の企画にも積極的に参加してきた。

今年度も新型コロナウイルス感染拡大が何度か発生し、在宅サービスや施設サービスの休止や感染を心配して利用者自身がサービス利用を控えることも見られ、不安やストレスから心身の状態が悪化する利用者が見られことは特徴的であった。また、すばる相談支援専門員やその家族がコロナ感染し、のべ1か月近く、本来の業務ができないこともあった。

利用者本人や家族との面談、サービス事業所等との利用調整等を毎月行ってきた中で、相談支援専門員の説明不足や調整不足に対する苦情が数件あったことは反省点である。利用者や家族の実情や特性の理解が不十分であったことが元にあった、と振り返りを行った。

そのような中、今年度も社会福祉士受験資格取得のための大学の実習生の受け入れを行ってきた。

今年度のサービス等利用計画の作成とモニタリング実施件数は以下の通り。合計 601 件で前年度並みの件数であった。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
計画作成	13	17	9	11	12	13	10	15	11	17	12	24	164
モニタリング	33	38	33	38	37	43	40	42	32	32	36	33	437

2. 支援体制

専従の相談支援専門員 2 名体制で実施したが、3 月より、1 名の相談支援専門員が産休・育休となった。

3. 研修等

週 1 回のすばる内のケース会議を実施するとともに、下記のような研修会等への参加をしてきた。

日付	研修内容	参加者
7月12日	精神科病院からの退院支援に向けた職員研修会	1名
9月13日	支援者のための成年後見制度活用講座	1名
11月10日	高次脳機能障害支援従事者研修会	1名

4. 実習生の受け入れ

今年度も、法人内事業所の見学やケアワーク実習の実施、近隣事業所の見学・訪問、在宅利用者宅への訪問の同行及び利用者への直接アプローチ(アセンメント及びサービス等利用計画案の作成等)をプログラムにして実習生の受け入れを行った。昴会各事業所の協力を得た。1 か月におよぶ宿泊での実習であったことや、コロナ禍での訪問する利用者、事業所調整や毎日の日誌確認等で職員の負担も少なくなかったが、生き生きと実習を行っている姿も見られ有意義な機会になったのではないかと思う。すばるとしても日頃の業務確認等の面でもとても良い機会となった。

所属等	目的	実習期間	日数	人数
静岡県立大短大	ソーシャルワーク実習	9月26日～10月25日	24	1

事業報告の附属明細書

令和4年度事業報告の内容を補足する重要な事項がないため、事業報告の附属明細書は作成していません。

社会福祉法人 昂会